

平成 26 年度 第 1 回大槌町コミュニティ協議会 開催結果のお知らせ

発行日：平成 27 年 1 月 23 日

発行：大槌町総合政策課

1. はじめに -コミュニティ協議会開催概要-

平成 26 年 12 月 3 日中央公民館において、第 1 回大槌町コミュニティ協議会が開催されました。

コミュニティ協議会は、大槌町内の自治会（町内会、自治会、仮設住宅団地自治会等）と、大槌町で活動する団体（NPO 法人、一般社団法人、任意団体、社会福祉団体、企業等）が一同に会し、**今後の大槌町のより良いコミュニティのあり方や地域課題の解決について協議を行うもの**です。

第 1 回目今回は、自治会等 21 団体 26 名、NPO 等 30 団体 47 名、合計 56 団体 83 名が参加しました。

～当日の次第～

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 大方潤一郎教授挨拶
4. コミュニティ協議会に関する説明
5. 交流会
参加者紹介、テーマ別
れての課題の共有
6. まとめ
7. 閉会



碓川豊町長あいさつ（抜粋）

東日本大震災を経て、自分達の町を自分達がつくらねばならないという状況でコミュニティ活動が活発になってきていると感じている。

平成 26 年 4 月に改定した大槌町東日本大震災津波復興計画（基本計画）の「コミュニティ連携プロジェクト」という重点プロジェクトの中に、このコミュニティ協議会を位置付けているので、本協議会は大槌のこれからのまちづくりについて、諮問するような形や協議していただく場まで発展してほしい。みなさんと和気あいあいとしながら連携し、この協議会をスタートしたい。

東京大学教授あいさつ（抜粋）

大槌町が復興を成し遂げるためには、住民と行政、そこに外部の支援団体の力や民間企業の力を上手く連携させてチームワークを組み、効率良く新しいコミュニティをつくること、そしてコミュニティをサポートする体制をつくるのが大切である。

それぞれのコミュニティで効率的な実行計画をみなさんでつくって頂き、それらが連携して着実に実現していくという場が必要である。この協議会では、このような方向で運営や協議を進めて欲しい。



2. コミュニティ協議会とは？ -町役場からの概要説明-

コミュニティ協議会の冒頭で、大槌町総合政策課から、「コミュニティ協議会の位置づけ」、「コミュニティ協議会のねらい」、「大槌町で始まっている地域活動の事例紹介」、「震災復興とコミュニティの事例(山古志村と神戸市の事例)」、「助成金の紹介」の説明が行われました。



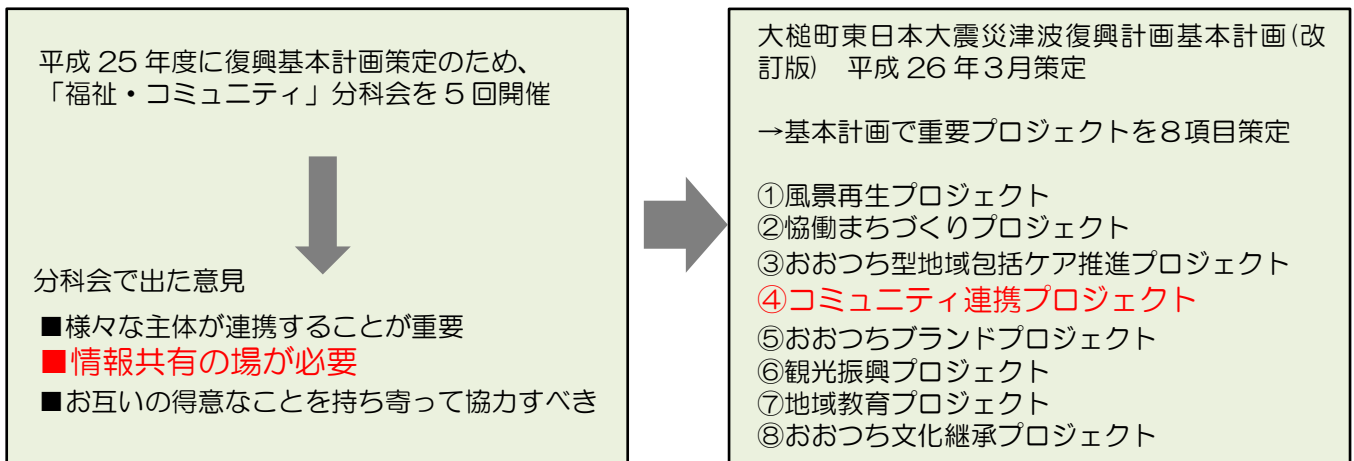
総合政策課 氏による説明



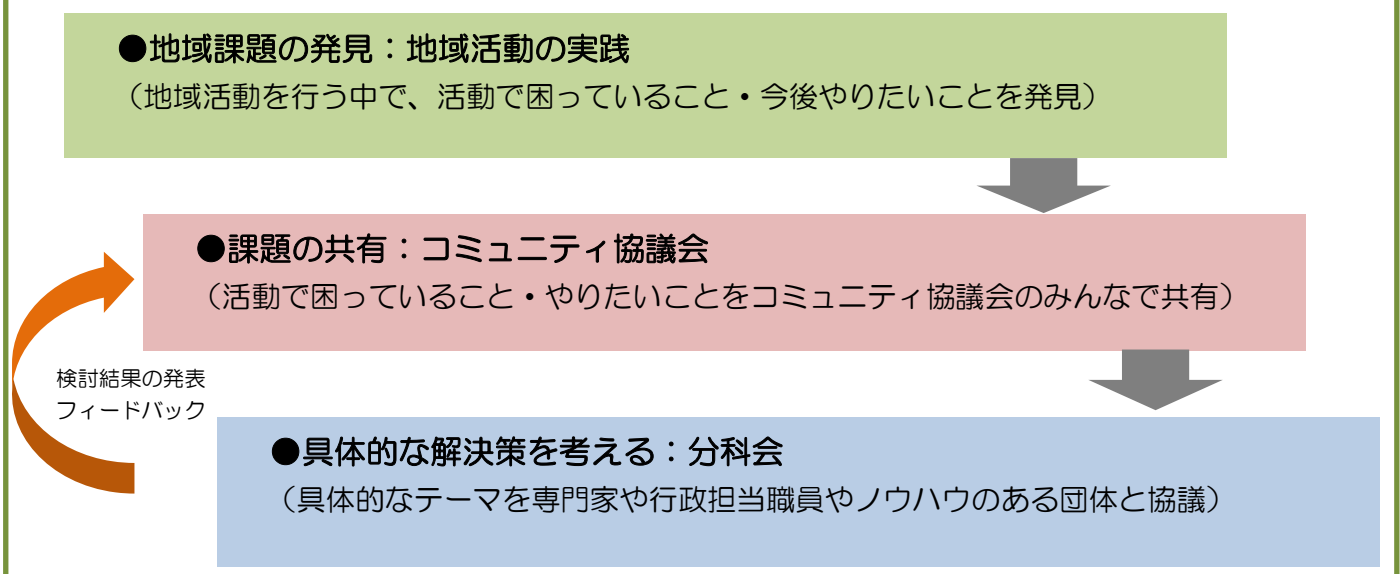
説明を聞く参加者のみなさん

①コミュニティ協議会の位置づけ

コミュニティ協議会は大槌町東日本大震災津波復興基本計画の重点プロジェクト「コミュニティ連携プロジェクト」の一環として位置づけられています。

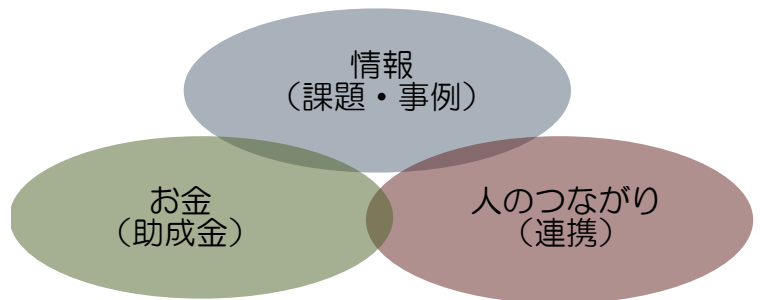


②コミュニティ協議会のねらい



③コミュニティ協議会で共有

このコミュニティ協議会では、地域課題や地域活動の事例紹介といった「情報」、各活動団体や地域コミュニティ、外部支援団体、行政関係者による地域活動につながる「人のつながり」、そして助成金情報といった「お金」に関する情報を共有したいと考えています。これらを共有して地域活動の活性化を促進します。



④震災復興とコミュニティの事例（新潟県山古志村と兵庫県神戸市の事例）

●新潟県山古志村
新潟県中越地震から10年が経過し、集落の人口は約半数に減少

震災ボランティアと交流を続けながら、集落の活力を維持

●兵庫県神戸市
震災以降に生まれたNPO等が市民活動を行う主体として定着

さまざまな主体の関係性を構築し、市民活動が活発化

●新潟県山古志村と兵庫県神戸市の事例から言えること

- ・人口は減っても、交流人口を増やす、継続することで活力は維持できる
- ・様々な外部の主体・団体と連携することで、活動の幅がひろがり、活力が維持
- ・閉鎖的な状況ではなく、オープンな心もちが重要

⑤助成金の紹介

●今年度地域活動に利用された助成金

- ・東京大学コミュニティ助成金
- ・新しい東北若者チャレンジ補助金
- ・赤い羽住民支え合い活動助成
- ・コミュニティ助成（一般社団法人自治総合センター）
- ・アサヒグループ・コミュニティ助成
- ・公益財団法人さんりく基金・地域コミュニティ再生事業
- ・ふるさとづくり協働推進事業補助金（町事業）

今年度も助成金を利用して様々な地域活動が行われています。大槌町ホームページに補助金・助成金情報をまとめていますのでご覧ください。

大槌町ホームページで紹介

URL→<http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2014112500042/>

補助/助成主体	対象団体及び対象事業	補助/助成金額	募集期限	お問い合わせ先
若手商売継承社会 活動助成サポート センター	親睦市町村単位もしくは市町村の一部で行う、次に掲げるいずれかの活動 (1)集落単位が主体となつて行う活動 (2)高齢者福祉サービスの対象とした支え合い活動	5万円以上 30万円以下 ※初年度30万円、 次年度以降15万円 を限度	第一次募集 平成27年 2月15日(日) 必着	若手商 高齢者社会福祉活動サポートセンター 〒020-0045 若手商売継承社会活動助成センター1-7-1 アイーナ6階 TEL：019-666-1774 FAX：019-666-1765

3. 大槌で始まっている地域活動の紹介

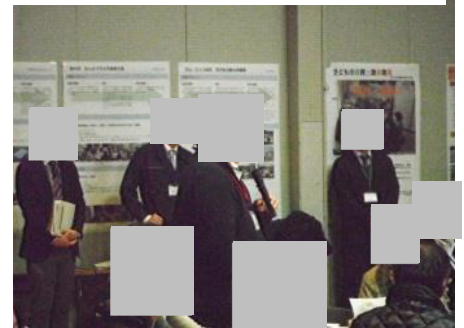
事例1 桜木町地区ウォーキング ～地域力の回復を目指した取り組み～

【実施体制：自治会と役場総合政策課（企画協力）、保健福祉課（血圧診断、ミニ講演）の協働】



11月8日に開催。58名の参加があり、年齢層は4歳から84歳までの幅広い年齢の方が集まった。体力に応じてコースを設定し、話しながら和気あいあいとウォーキングを楽しんだ。ウォーキング前には保健師による血圧測定と健康についてのミニ講演も行った。昼食でおにぎりや気仙沼産のふかひれのつみれ汁が振る舞われた。

桜木町では毎年ウォーキングを行っているが、今回は会費を取って行った。参加費の200円で、桜木町ということでピンクの軍手、歩数計、血圧手帳、ミネラルウォーターを配った。参加者からは好評で毎月開催してほしいという声もあったが、毎年2回を目処に開催していきたい。



桜木町自治会 会長

事例2 花輪田地区ウォーキング ～地域力の回復を目指した取り組み～

【実施体制：自治会と役場総合政策課（企画協力）とカリタスジャパン（企画・当日運営協力）の協働】



11月9日に開催。健康づくりと史跡探索の2つ目的を兼ねたウォーキングが開催された。また、地区内にある雇用促進住宅の居住者との交流が希薄であることから、交流を促進するための昔遊び体験とバーベキューも併せて行われた。

この企画は、花輪田自治会役員会で検討して行った。その中で、花輪田地区には、古廟という史跡があるので、その史跡を勉強して頂くウォーキングを行うこととした。

非常に有意義な1日であり、地域コミュニティの関係が深まったと思う。



花輪田自治会 会長

事例 3 住環境点検（大ケ口団地自治会・大ケ口部落会） ～外部との連携による活動～

【実施体制：自治会と役場総合政策課（企画協力）と東京大学（企画・当日運営協力）の協働】



11月1日に地域復興協議会の中で、地域の住環境に関する課題の共有を主な目的として住環境点検が開催された。

東京大学の学生も活動に協力し、実際に歩いて危険な箇所などを確認した。

また桜の名所なども地域の隠れえた名所の確認も行われた。

今回の活動のポイントは、若い方に参加して頂くことだった。若い方から子供の通学路に街路灯が無いので暗いという意見を頂くことができた。

11月11日には22箇所の街路灯設置の要望書を町に提出した。要望書を提出できたことは有意義であったし、今後も活動を続けていきたい。



大ケ口団地自治会 ■■■■■ 事務局長

事例 4 吉里吉里プロジェクト ～外部との連携による活動～

【実施体制：自治会と役場総合政策課（企画協力）とコンサルタント（企画運営協力）の協働】



吉里吉里地区では総務省の過疎対策事業の予算を使い「元気いっぱい明日の吉里吉里プロジェクト」を行っている。

活動は、夏の海開きと砂の芸術祭、わかめかりんとうの商品開発、吉里吉里の伝統芸能を若い人に伝える活動、子供の夏休み時に明治学院大学や岩手大学等と連携した遊びや学習支援等がある。

今年4年ぶりに地区の運動会を開催した。約300人が参加し、大変盛り上がった。終わった後には、子供からお年寄りまで感謝の握手をされた。やって良かった。

これからの大槌のまちづくりのためには、町内会主催のように自分達の手で企画をすることが大切だと思う。



吉里吉里公民館 ■■■■■ 館長

4. テーマ別に別れての議論・意見交換の内容（抜粋）

テーマ1 健康づくり・高齢者みまもり

●議論に参加した団体

○自治会等

桜木町自治会、沢山町内会、大ケロ部落会

○NPO等

NPO法人参画プランニング・いわて（芽でるカー）、新生おおつち、NPO法人つどい、NPO法人AMDA（AMDA大槌健康サポートセンター）、NPO法人みどりと自然を育む会、（株）ジャパングリエイト（大槌町地域支援員事業）、NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち

●買い物支援について

・地域内に店が無いことが課題である。

→昔は地域内に小さなスーパーがあり、買い物だけでなく地域の人たちが集まる場になっていた。ずっと支援団体が買い物代行を続けられるわけではないだろうし、自分たちでも買い物支援を行えるようになりたい。（大ケロ部落会）

●雪かき、下水掃除の問題

・雪かきも問題だが、下水掃除では重い蓋を上げて掃除を行う必要があり、困難を感じている。

→足が不自由など、どうしても自分ではできないという人だけでも（支援員が）手伝うということはどうか。雪かきに気づいたことを各地区で共有できないか。（つどい）

●震災前を振り返りたい

・大ケロは、数十年前に少しずつ人が集まり集落ができてつながりができた。地区に災害公営住宅ができ、集落づくりの難しさを感じているので、参考にしたい。

テーマ2 環境づくり・花壇づくり

●議論に参加した団体

○自治会等

大ケロ部落会、沢山町内会

○NPO等

NPO法人@リアスNPOサポートセンター、大槌町花と夢いっぱいプロジェクト、NPO法人みどりと自然を育む会、三陸復興応援団きたかみ、NPO法人ワークスコープ

●地域と団体の連携事例

・沢山地域では、花と夢いっぱいプロジェクトの阿部さんをお願いして一緒に花壇づくりを行った。もともと知り合いだったこともあり、阿部さんの活動内容をよく知っていたというのが連携のきっかけである。（沢山町内会）

・大ケロ災害公営住宅自治会では、まごころネットの臼澤さんに依頼して緑のカーテンづくりを行った。その活動によって閉じこもりがちだった方も外に出るようになり、大変いい活動ができたと思う。（ワークスコープ）

●活動への参加状況

・地域における人の集まりは、長い時間をかけて形成されるものだと思う。仮設住宅の場合は期間が短いため、自治会の取り組みが難しい恐れがある。（@リアス）

●今後の地域と団体との連携（マッチング）について

・今のところ支援団体をお願いしたいことはないが、今後出てくる可能性がある。どのように連絡を取ればよいか。（大ケロ部落会）

→コミュニティ協議会で、今後各団体や地域のカルテのようなものをつくるので、それを参考にしてほしい（事務局）

テーマ3 仮設住宅の諸問題

●議論に参加した団体

○自治会等

大槌第8仮設団地自治会、大槌第6・7仮設団地自治会、金沢仮設団地、小槌第5仮設住宅自治会、小槌中村仮設団地自治会、小槌第2・17仮設団地自治会、小槌第8仮設自治会、小槌第8仮設自治会

○NPO等

NPO法人@リアスNPOサポートセンター、宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン（カリタス大槌ベース）、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

●NPO等の活動

・いろんなことに取り組んでいる。3年以上経過して、支援慣れという問題も起きてきている。被災者の方々が支援を受けることに頼り切ってしまうのは好ましいことではないので、そのへんを配慮することが必要。（カリタスジャパン）

●自治会の活動状況、問題点

・仮設内の高齢者や病弱な方などの情報がわかればやりやすい。（小槌第8仮設自治会）

・活動をするにあたっての資金難が問題。自分たちで出し合っても活動できればいいが難しい。（小槌第8仮設自治会）

・耕作地を借りて農作業を楽しんでいる。サンガ岩手の支援を受け藍の栽培と藍染めに取り組んでいる。（小槌第2・17仮設団地自治会）

・下水が詰まって問題となったことがある。集会所の鍵を預かっているが、貸し出しと返却にいつでも対応できるようにするのはとても負担が重い。土日に使いたいという人がいても、常にそれに応じるのは大変。（小槌第5仮設住宅自治会）

●今後の地域と団体との連携（マッチング）について

・小槌第5仮設住宅自治会の集会所の鍵の管理方法

→NPOと支援員が連携して、イベントの予定を組むなどすれば、負担を軽くすることも可能ではないか。（@リアス）

テーマ4 観光・交流人口拡大

●議論に参加した団体

○自治会等

赤浜第2仮設団地自治会、吉里吉里二丁目町内会、沢山町内会、吉里吉里地区地域復興協議会

○NPO等

社会福祉法人大槌社会福祉協議会、一般社団法人おらが大槌夢広場、音楽ホール槌音プロジェクト、NPO法人吉里吉里国、新生おおつち、一般社団法人SAVEIWATE、NPO法人テラ・ルネッサンス、はまぎく会、公益社団法人東日本大震災雇用・教育・健康支援機構（どんりゅう庵モーターハウス）、NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち、一般社団法人和 RING-PROJECT、NPO法人ワーカーズコープ

●活動の課題に関する意見交換

・これまで多くのボランティアで大槌を訪れた方が、もう一度大槌で活動したいという声はあるが、受け入れ先や活動場所が無いことが課題であり、お断りしている状況である。（社教）

→吉里吉里では、ボランティア活動をして頂いた方（他地域の学生等）と交流することを行っている。みんなが家族のようになっていく。これまで連携してきた方々と連携を行えば活動が活発になるのではないか（吉里吉里二丁目町内会）

・イベント時の地元と外部との連携の方法に課題がある。地元と外部の役割分担を考えることが必要である。（ぐるっとおおつち）

→地域活動を継続発展させるためには、支援（外部）より自立（地元）に目を向けていくべきである。外部の人を地域の人がおもてなしすること、自分達が楽しむことのバランスが大切である。（ぐるっとおおつち）

●今後の地域と団体の連携（マッチング）について

・これまでボランティアに来て頂いた個人・団体との関係をもう一度交流してみる。（吉里吉里二丁目町内会）

・ふるさと大槌会などの大槌に思いのある人をターゲットとして、その人達との交流を図ることから初めてみる。（沢山町内会）

テーマ5 子育て・教育

●議論に参加した団体

○自治会等

赤浜第2仮設団地自治会、安渡町内会

○NPO等

NPO法人カタリバ（コロボスクール大槌臨学舎）、特定非営利活動法人、ジャパン・プラットフォーム、一般社団法人SAVEIWATE、はまぎく若だんな会、復興まちづくり大槌株式会社、社会福祉法人夢のみずうみ村、（子ども夢ハウスおおつち）、NPO法人ワーカーズコープ

●自治会等の課題

・以前は小中学校のPTAで動いた方が、地域を引っ張っていくような流れがあった。今後、小中学校は統合され、昔のように放っておいてもリーダー的な存在が生まれる時代では無い。今後はリーダーの生まれる仕組み作りが必要。（安渡町内会）

●NPO等の課題

・子どもの遊び場だけでなく、様々な世代が助け合って行ける仕組みを模索している。

→きっかけは自然発生が良い。イベントだけではそのとき集まるだけとなる。普段から交流促進することが大切。NPOのみなさんは、もっと地元へ飛び込んで自らを知ってもらうための努力をして欲しい。直接のコミュニケーションが一番良い。（若だんな会）

・町内の遊び場が少ない。交通手段が無いと遊びに行けない。子どもたち同士の交流の場が減っている。（まちづくり会社）

→カタリバは勉強をメインの目的としているが、子どもたちのガス抜き場としても、良い場所だと思う。

●今後の地域と団体との連携（マッチング）について

・NPOが、自治会の会議などに定期的に出て頂き、地域の状況を知ってもらえたら今後うまくコラボレーションできるかもしれない。（安渡自治会・子ども夢ハウスおおつち）

テーマ6 防災・防犯

●議論に参加した団体

○自治会等

小槌中村仮設団地自治会、沢山町内会、花輪田自治会、吉里吉里四丁目若葉会

○NPO等

NPO法人@リアスNPOサポートセンター、社会福祉法人大槌社会福祉協議会、新生おおつち、はまぎく若だんな会、NPO法人まちづくり・ぐるっとおおつち

●自治会の課題等

・津波が来ない地域でもあり、これまで自主防災組織がなかった。しかし、津波が来れば受け入れの必要が出てくることから、避難所運営など必要な備えはしていきたいと思っている。そのような自主防災組織設立の支援はないだろうか？（吉里吉里四丁目若葉会）

・防災意識は高まっており、自治会館はないが早く自主防災組織を設立したいと思っている。（沢山町内会）

・町方の盛土により花輪田地区の津波被害が広がると考える人が多く、花輪田地区の防災意識が高まっている。高齢者などの要支援者の対応検討も進めているところである。（花輪田自治会）

●今後の地域と団体との連携（マッチング）について

・これまでこのような地域間の横の連携がなかった。他の地域の知恵・情報を共有することは勉強になる。（自治会側複数）

・各地域の防災対策がバラバラなままではダメで、町の防災計画に位置付けられた統一的な防災計画が必要になる。そのためには町全体を統括する支援組織が必要で、その組織が外部のNPOなどの協力を得ながら、各地域のコミュニティを支援する公助・共助・自助の仕組みが必要。（ぐるっとおおつち）

→自主防災のワークショップなどで、ファシリテーターが必要になる時は、@リアスが支援可能である。（@リアス）

【参加者からのアンケート結果（抜粋）】

●コミュニティ協議会に参加して、活動がより良くなるために気づいたこと

- 町内会、自治会と繋がって色々一緒に行動していくことを始めたい。そのために自ら動いていきたい。（NPO 法人カタリバ、コラボスクール大槌臨学舎）
- 自主防災について活動を行いたい。また、草刈りや側溝清掃後の回収、町道の除雪の手伝いをNPOと協力してできないか。（吉里吉里 4 丁目若葉会）
- 花壇整備、草刈り、漁業支援、イベント補助、傾聴の活動などを行っている。これからは補助金を有意義に活用したい。（三陸復興応援団きたかみ）
- 仮設団地談話室でのイベント、地域活動の手伝い、イベント等を行っている。今後も自治会と協力連携を行いたい。（NPO法人@リアスNPOサポートセンター）
- 草刈り、夕涼み会、高齢者懇談会を行っている。今後はNPOと一緒に活動することや補助金の活用を行いたい。（沢山町内会）
- 四季折々の花見、みずき団子づくり、盆踊り等を開催し、住民同士のコミュニケーションをとっている。草刈り、雪かき等は適時住民ほぼ全員で行っている。現在も交流や活用は行っているが、さらに住民のためになるように取り組みたい。（吉里吉里第5仮設団地自治会）
- 利用者や職員の命を守るための全部署対象の避難訓練を行いたい。そのために役場の危機管理室長を招いての研修会を開催したい。（社協）
- 被災した人とそうでない人との差を取り除く活動が必要である。その接着剤となるのが、役所、NPO、よそから来たボランティアだと思う。（無回答）
- 大槌町の花いっぱい運動の復活と再構築を行いたい。そのためにこれから整備されていく緑地帯の活用を地域住民と協働で取り組みたい。（大槌町花と夢いっぱいプロジェクト）
- 仮設からその先のコミュニティ形成も視野に入れた様々な活動の取り組みをしてほしい。そのためには、本当のニーズ調査から見える化し、マッチングをどこが担うのか？公設の中間支援体制が一番（運営は民間でもOK）良いと思う。（NPO法人@リアスNPOサポートセンター）

●コミュニティ協議会に参加しての感想

- 子育て分科会に参加したが、子供と高齢者の世代をこえた支え合いや未来の地域リーダーを育てる下地の話もあり、とても勉強になる機会であると感じた。（NPO 法人ワーカーズコープ）
- 初めてこのような大きな会議に参加した。進学のために地元を離れている間にこんなに大きな問題が山積みだったことを初めて知った。環境も大きくかわってしまい、私がいた頃と全然違った環境は今後どうすれば元になるのか。私も一緒に考えていけたらと思う。（カリタス大槌ベース）
- コミュニティを作るにもまず、家の再建やライフラインの整備が先決だ。また、協議会が官製の頭でかちにならないことと思う。（無回答）
- イベントについて広報誌で一度に配布することは楽だろうが、被災していない自治会もあるので、その方々については自治会を通して行うようにしていただきたい。今のままでは、既存の自治会の活動を壊すだけである。町内には被災していない者も住んでいることを忘れてほしい。（吉里吉里 4 丁目若葉会）
- 住民と行政の間で基本的に解決できる課題が多いと感じた。（公益社団法人シャンティ国際ボランティア会）
- 今回のように分科別にすると話しやすい。また分科別に開催してはどうか。（一般社団法人 RING-PROJECT）
- これを期に各団体の横のつながりが出来ればと思う。（はまぎく若だんな会）
- 協議会は仮設住民にとっても、これからの大槌町にとっても意義があると思うので、さらに充実してほしい。（吉里吉里第5仮設団地自治会）
- 色々な団体や自治会等の活動を知ることができたことが参加して良かった。（NPO 法人ワーカーズコープ）
- 一堂に集まり、名前と顔が一致した。これから関係を創る機会になって良かった。（沢山町内会）
- まとまっている地域と分断された地域が持つ課題が、それぞれの地域の成長を遅くしているように感じた。ここが課題だと思う。（一般社団法人 SAVEWATE）

教授（大槌町復興戦略会議座長）からのまとめの言葉

この組織はこれからの大槌町の復興の戦略を練り、且つ連携して実行する中核的組織になることを期待しています。今回のようにまず問題を共有して、それを解決する方法をみんなで考えて、それを実行可能な戦略に落とし込み、それぞれの役割を分担して、戦略を実行していく。そしてまた課題をこのような場でもう一度見直して、次の方針を立てるとそういう形にして、初めて大槌町の復興というものは、急速に進んでいこうと思っております。

★第2回コミュニティ協議会の開催予定

次回は、2015年3月17日（火）を予定しております。

詳細は追ってお知らせいたします。

次回も沢山の参加をお待ちしております。